

～新しい診療科のご案内～

「形成外科」が開設されました

---

# 形成外科について

- 形成外科は主に体の表面の病気をみる診療科です。
- 以下のような症状がありましたらお気軽にご相談ください

顔や体のできもの(ほくろ)、巻き爪、  
やけどや傷あと、生まれつきのあざなど

# ほくろ・あざについて

- ほくろは生まれたときはほとんどなく、年をとると増えてきます。その中にほくろに見えて実は皮膚癌の仲間が見つかることがあります。
- あざは生まれつきのもものがほとんどですが、レーザーなどで治療できる場合もあります。成人後にでてくるあざには悪性のものである場合があります。



# 巻き爪、陥入爪

- 巻き爪

足の指の爪が横に丸くなって、指に食い込む状態です。痛みがなければ放っておいて構いませんが、痛みがある場合は爪をまっすぐ伸ばす処置などをします。



- 陥入爪(かんにゆうそう)

主には深爪をしたり爪の切り方が悪かったりしたため、爪の一部が指に食い込んだ状態です。正しい爪の切り方である程度治りますが、何度も繰り返す場合は手術が必要なこともあります。



# その他このような病気をみています

- やけど
- 顔の擦り傷や顔面の骨折
- 口唇口蓋裂
- 生まれつきの手足の異常、外傷による切断
- 生まれつきのアザ(母斑・血管腫)
- けがややけどの傷跡
- 床ずれ、糖尿病性潰瘍

# 形成外科診療日について

- \* 月に2回診療を行っています。
- \* 第1と第3の土曜日が診察日ですが、変更もあるため、事前に病院で確認をお願いいたします。
- \* 担当医師  
愛媛大学医学部附属病院形成外科助教授  
森 秀樹医師